

和歌山大学クロスカル教育機構研究紀要の創刊に寄せて

クロスカル教育機構長 石塚 互

和歌山大学クロスカル教育機構は、大学内のいくつかのセンターを合わせて平成 28 年度にスタートしました。機構のミッションは社会で活躍する人材の涵養で、担当する範囲は広く学生教育・学生支援の全般にわたります。そのために、専攻の異なる多くの教員が機構内の様々な部署に配置されています。ところで、学生教育・学生支援を大学教員として行う際には、当然に教員の研究が基盤となります。本紀要は、機構に配置された教員の専攻分野の研究結果の発表の場として、また機構が行う活動に関する研究成果の主な発表の場として創刊されました。掲載されている論文の主題は当機構の成り立ちを反映して多岐にわたっていますが、それぞれの分野で高い水準にあるものです。

さて、昨年ニュースで大きく報じられましたが、グーグル社の子会社であるグーグルディープマインドが開発した囲碁 AI（人工知能）の「 α 碁」が、大方の予想に反して人間の世界チャンピオンに勝利を収めました。その後もコンピュータの機械学習（ディープラーニング）を通じて急速に改良が加えられ、現在ではその能力は人間を遥かに超えた高みに登っています。このような最近の AI の想像を越える進化により、おそらくは社会全体が変革の時代に入ったようです。同時に本学を含めて大学も人口減少期を迎えて大きく変わろうとしています。クロスカル教育機構の設置もこれの一つの現れです。「クロスカル」とは、元々は「クロス（交流）」と「ローカル&カルチャー」を併せた造語で、大学図書館を改装した際に、出会いと交流の場としての新しい図書館を表わすクロスカルセンターとして当てられました。現在の正式な英語表記は“Cross-Curricular and Cross-Disciplinary Education”ですが、見られるように Cross - 交流が鍵となっています。

当機構内に置かれている部門の一つである「国際学生部門」では、海外の国・地域の事情に通じ、世界の中での日本を意識する教職員が、留学生の支援と海外に留学する日本人学生の支援を行うとともに多国籍の学生の交流の機会を頻繁に設けて、お互いの違いを理解した上での真の意味での異文化交流に取り組んでいます。「保健センター」は、学生の心身の健康管理の支援を通じて学生の学習環境を整えることが主な業務ですが、近年は特に心の問題が大きくクローズアップされています。それに応えて本学では「キャンパスライフサポートルーム」と呼称する「障がい学生支援部門」が設置され、健全な学生と障がいを持つ学生の交流を通じて相互の理解を深める

取り組みを進めています。これらの二種の組織は多くの大学でも置かれていますが、本学では両方ともに当機構に属しており、専門的な知見を持つスタッフが緊密な連携を取りながら協力して学生の支援に当たっています。

また「教養の森」も当機構に属し、各学部での専門教育と併せて2つの柱となる教養教育を企画し運営するとともに、所属する教員が授業も担当します。「教養の森」が開講する科目の中には「わかやま」という地域をテーマとして、地域社会との交流を意識した内容のものもあり、地域をフィールドとする実践的な教育・研究に取り組んでいます。「生涯学習部門」には地域連携や地域貢献といった、これからの大学に求められる役割を担う教職員が配置され、社会人のリカレント教育や、地域を大学のキャンパスとする学生の実践的な教育を行っており、地域社会と大学の交流の中心にあります。

他にも当機構には「図書館」に加えて「学術情報センター」「キャリアセンター」「協働教育ユニット」「教育・地域支援部門」「アドミッションオフィス」「データ・インテリジェンス教育研究部門」があり、それぞれの専門の研究を深めながら大学教育にあたっている多くの教員が所属・配置されています。本研究紀要が異分野を専攻する教員の交流の場となり、新しい大学、新しい社会で求められる学術研究の創造に繋がることを期待します。